



NO.1414

5月14日号

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F 四三二一四四五七



国民平和大行進2023

核兵器廃絶を訴え 4年ぶりの通し行進者

2023年国民平和大行進が7日午後、保健センター駐車場からスタートしました。気温が9℃と肌寒い日でしたが、5団体から22名の参加がありました。各団体から代表して平和の願いや核兵器廃絶への思いが語られました。

91歳の通し行進者の山口逸郎さんは、「政治学者の畑田重夫さんが『平和行進者は平和の宣伝者であり組織者だ』と言っていたことを胸に刻んでいる。少しでも多くの市民に1歩でも2歩でも歩こうと呼びかける」「今年の悪いことは岸田政権の平和を脅かす計画、良いことは通し行進が4年ぶりにできたこと。元気に歩きます」と決意を述べています。

行進はエコーセンター、バスターミナル、市民会館前を通り駅まで「ノーモア広島、ノーモア長崎」と平和の呼びかけをしながら行進しました。途中、車から熱い応援もあり、元気な平和行進となりました。



元気一杯、「一緒に歩きましょう！」市民に呼びかけていました

憲法記念日にあたって あらたな戦前にさせない努力を

日本国憲法施行から5月3日で76年を迎えました。憲法は「最高法規」です。憲法に反するすべての法律は無効です。では、憲法を守らねばならないのは誰でしょう？「ア、国務大臣 イ、国会議員 ウ、公務員 エ、国民」。答えは、「アとイとウ」です。第99条にそう書いてあります。憲法は国民を縛るものではなく、国家権力を縛るものです。なぜでしょう？時に権力は暴走するからです。権力の濫用は国民の権利・人権を侵害することがあります。だから、憲法は国家権力を縛っているのです。これが「立憲主義」です。

2015年、集団的自衛権の行使を容認する安保法制が安倍政権下で強行されました。そして、いま岸田政権による大軍拡、敵基地反撃能力の保有により「戦争する国」にされようとしています。憲法前文には、「…再び戦争の惨禍が起こることのないように」とし、「日本国民は…この理想と目的を達することを誓ふ」と刻まれています。憲法を守り活かし、そのための法整備をすることが政治家の仕事なのに、理想に向かうのではなく、憲法を現実に合わせてようと憲法を改悪させようとしているのです。「あべこべ」です。

「ジェンダー平等」、「教育費の無償化」や「文化的な最低限度生活」はできているのか!? 今、ここに向かうべく法整備をすべきです。私たちも政治家にその仕事をさせるために監視する必要があります。第12条に書かれているように「…権利は、国民の不断の努力によって保持しなければならない」のです。

日本国憲法前文…「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起こることのないやうにする。」「日本国民は国家の名誉にかけ全力をあげてこの崇高な理想と目的を達することを誓ふ」

第12条…「この憲法が国民に保障する自由および権利は、国民の不断の努力によつて保持しなければならない」

松浦 奮戦も



2023年国民平和大行進が7日に行われましたが、網走コースから東京までの通し行進者として、これまでの最高齢の91歳の山口逸郎さんの元気な姿に、お会いしたみなさんが驚きの声を上げていました。出発式で決意表明がありました。行進はエコーセンター前を出発し街中を通って網走駅までですが、最初から最後まで「平和行進をしています」「核兵器廃絶、ノーモア広島、ノーモア長崎、ノーモア福島」など大きな声で呼びかけていました。

古希になったばかりの私にとっては大変な刺激になり、年だからとか疲れたなどと言ったら、何を言っているのと叱られそうです。党活動は楽しいことばかりではありません。苦しいことが多いと思いますが、未来に希望をもって困難に立ち向かわなければならぬと決意を新たにしています。

村越 駆けがる



今年のゴールデンウイークは市議選が終わったばかりで、のんびりとはなりませんでしたが、山に入ると鹿の足跡を探したり、山菜とりと楽しみました。しかし、雪解けが早く温かい日が続いたため、いつもなら小さい行者に比べると大きくなっていましたから、ジーンズカンでおいしくいただきました。

別の日、近所の農家さんの畑にニラが生えていたのを見て、近所の人に「水仙と間違えるなよ、死ぬぞ」と脅され、葉をちぎった時に臭みがあったのと花が咲いていなかったもので、少しだけ豚肉といたため食べてみました。でも、味がいまいちだったので、畑に行くと根を見るとなんと球根になっているので、ありませんか。お腹が痛くなることもなく無事に済みましたが、食べたのは水仙でした。みなさん、山菜は気をつけてよく調べてから食べましょう。思い込みはしないように、くれぐれも。

流水

市議選が終わりました。松浦、村椿さんの当選を祝うように桜の花が満開。桜色が青空に映える。公示日からの雨、雪と自然の洗礼を受けた。2名はみ出しの厳しい選挙でも疲れ、疲れと癒しに温泉へ、熱いモール泉は疲れを解してくれました。▼春は山菜の季節、今年取りに行けずいた。親しい友人から「ハマボウフウ食べるかい？」と電話が鳴る。山菜の『王』とも言える今は幻の山菜だ。妻に酔味噌和えにしてみよう。独特の風味と香りについて赤ワインも一口、20年振りの味に至福の時を頂いた。▼気が付けば、庭にはスイセン、チューリップが咲いていた。散歩中に2歳の女の子が、指を指す。若いお母さんが「チューリップだよ」と、教えている。又、指を指す。「赤だよ」。「あか・」。「これは黄色」女の子は、赤いチューリップに頬を付けて微笑んでいた。青く高い空、眩しい光の中、ヒバリが「春だ、春だ」と告げている。やさしい風が吹いている。

アスリート爺

